



企画展
うるわしき花と鳥
4月18日(日) — 5月30日(日)

展覧会概要

花々の美しい姿や豊かな香り、鳥たちのしぐさや心地よい鳴き声は古来、人の心を潤してきました。人は身近な絵画や工芸品の中に花鳥を写し込み、花と鳥を様々な組み合わせることで四季を表現し、あるいは姿・形を抽象化し洗練されたデザインとしました。また、花や鳥は自然科学の研究対象でもあり、江戸時代にはそこから生まれた図譜などに新しい美の世界が創出されました。

日本で育まれてきた花と鳥にまつわる美しい世界を、絵画や工芸品により紹介します。

展覧会基本情報

- ◆展覧会名 企画展 うるわしき花と鳥
- ◆会場 名古屋市蓬左文庫展示室
- ◆会期 2021年4月18日(日)～5月30日(日)
- ◆開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- ◆休館日 月曜日(但し、5月3日(月・祝)～5日(水・祝)は開館、翌6日(木)は休館)
- ◆観覧料 一般1,400円 高・大生700円 小・中生500円
※20名様以上の団体は一般1,200円 高大生600円 小中生400円 ※毎週土曜日は高校生以下無料
※同時期の特別展「刻(とき)を描く 田淵俊夫」の観覧料も含む
- ◆作品点数 50点
- ◆主催 名古屋市蓬左文庫 徳川美術館
- ◆協力 名古屋市交通局

プレス内覧会および開会式

2021年4月17日(土)

プレス内覧会：午後1時30分～3時 受付：午後1時15分 会場：徳川美術館講堂

午後1時30分 同時期開催企画展「うるわしき花と鳥」解説/当館学芸員 安藤香織

特別展「刻を描く 田淵俊夫」解説/当館副館長兼学芸部長 神谷浩

午後2時～3時 各展示室にて自由取材

開会式：午後3時～3時30分 会場：徳川美術館 玄関ホール

※午後3時より、同時期開催の特別展「刻を描く 田淵俊夫」展の開会式を執り行います。

日本画家の 田淵俊夫氏をお迎えしてテープカットを実施いたしますので、ぜひ併せてご取材をお願いいたします。

テープカット参列予定者 日本画家 田淵 俊夫氏

徳川美術館 館長 徳川 義崇

名古屋市蓬左文庫 文庫長 橘 弘子氏

中日新聞社 名古屋本社 事業局長 尾久 充弘氏

日本経済新聞社 名古屋支社代表 稲宮 豊明氏

以上5名予定

第一章 花と鳥とパラダイス

美しい花と鳥は、西洋・東洋を問わず、「パラダイス」すなわち楽園と結び付けられました。日本でも古くから、蓮華が咲き瑞鳥が遊ぶ浄土思想の安楽の地・極楽浄土や、松が青く繁り鶴が舞う神仙思想の理想郷・蓬萊^{ほうらい}など、花や鳥たちに祝福されたパラダイスの考え方が根付いていました。また中世の物語『浦島太郎』などに登場する竜宮のように、四季を備えることもパラダイスの要素であり、そこに表される花と鳥は季節を象徴的に示す役割も担いました。



黄地枝垂桜に尾長鳥文金襴長絹
長絹は、主に能の女役の舞装束に用いられる。舞うごとに黄金の光を放つ枝垂桜に色とりどりの長尾鳥（綴帯鳥^{じゆたいちゆう}）が群れ飛ぶというパラダイスに通じるイメージが優美な感覚で表現されている。

四季花鳥図屏風（部分） （六曲一双のうち右隻）

右隻には春から夏、左隻には秋から冬と、四季おりおりの花や鳥が目にも鮮やかな色彩で描き出されている。移り行く季節を一つの画面に書き込んだ、おめでたい作品。



第二章 花をたのしむ

季節ごとに芽吹き、葉を茂らせ、見事に開花する花は、誰もが身近に楽しみ、想いを巡らすことができる題材でした。絵画や工芸には、移り行く季節を指し示すモチーフとして、自然の中に咲く花の姿を描いた品や、花の形を整理しデザイン化して採り入れた品など、多様な花を見出すことができます。また、自然科学の視点で編纂された図譜には、対象を正確に写し出そうとする描写のなかに、花の生来の美しさを見ることが出来ます。



重要文化財 百花百草図屏風（部分） （六曲一双のうち右隻）

輝く金地の画面に今を盛りと咲き誇る色とりどりの花々。春蘭に蕨、土筆…と右から左へ、春から夏、秋、冬と四季の移ろいが百種におよぶ花々であらわされる。パラダイスを思わせる比類ない美しさで、田中訥言^{とつげん}筆生^{ひょうせい}の名品と称えられる。



紫陽花時絵印籠 銘 芝山易政作

鉄刀木の器胎に、青の濃淡と白のガラスで花卉を、金やろう石・鼈甲で葉を象嵌して紫陽花をあらわした洒落た意匠である。

唐銅鶴香炉 ・菊折枝時絵香合台

鶴を象った大型の香炉。羽根部は取り外しができ、胴部で香を焚く構造で、羽根の間に設けられた三日月状の隙間と嘴を煙孔とし、ほのかな香りが漂う仕組みである。



百鳥図（部分）（五巻の内）

江戸中期以降には、博物学がブームとなり、動植物を写実的に描いた図譜が数多く製作された。本図も、博物学に対する関心から転写され、珍鳥の図譜として観賞されたものと考えられる。



雪中花鳥図屏風（二曲一隻）

雪の降り止んだ早朝、氷の張る水辺に鶴・鶺鴒^{せいら}など大小さまざまな鳥が集う。花鳥画を得意とした月樵の代表作の一つである。

第三章 鳥をめぐる

愛らしい姿ときえすりで季節の到来を告げる身近な鳥たちは、花と同じように、自然の中にみえる姿が写され描き込まれたり、あるいはデザイン化された文様として採り入れられたりしながら、絵画や工芸の中に展開しました。一方で、古代中国の天帝の使いである想像上の鳥・鳳凰、海外からもたらされる珍しい鳥・孔雀や叭々鳥などは、瑞鳥の有する気高さや吉祥のイメージとともに日本の文化の中に根付いていきました。鳥は、花とともに表されることが多く、両者の深いつながりが見て取れます。

展覧会関連イベント

◆土曜講座「花と鳥」

講 師：安藤香織（徳川美術館学芸員）

日 時：4月24日（土）午後1時30分～3時（午後1時開場）

場 所：徳川美術館 講堂

※土曜講座は年間を通じての受講をお勧めしており、令和3年度の通年受講は既に満席となりました。
当日欠席等で空席が出た場合のみ、1回800円（入館料別途・先着順）で受講可能です。

◆徳川園・徳川美術館共同講座 徳川園季節の草花と「うるわしき花と鳥」

講 師：堀田恭史（徳川園技師）・安藤香織（徳川美術館学芸員）

日 時：5月23日（日）午後1時30分～2時30分

会 場：徳川美術館 講堂

定 員：事前申し込みで先着60名

参加費：一般2,000円（入園料・入館料込）

視聴者・読者プレゼント提供

企画展「うるわしき花と鳥」を、ぜひ御社媒体にてご紹介ください。
画像を1点以上使用してご紹介いただいた場合、視聴者・読者プレゼントとして本展覧会の御招待チケット（非売品）を、1媒体5組10名様にご提供いたします。
（同時開催の特別展「刻（とき）を描く 田淵俊夫」もご覧いただけます。）

お問い合わせ 取材は随時お受けいたします



〒461-0023 名古屋市東区徳川町1017
TEL：052-935-6262（10時～17時受付）
052-935-8222（営業時間外受付）
FAX：052-935-6261
[報道関係対応窓口] 徳川美術館 管理部
吉川 由紀 yuki@tokugawa.or.jp
竹内 大知 d.takeuchi@tokugawa.or.jp



企画展 うるわしき花と鳥

広報画像申請書 使用期間: ~ 2021年5月30日



①黄地枝垂桜に尾長鳥文金襴長絹
江戸時代 17-18世紀
徳川美術館蔵



②四季花鳥図屏風 (六曲一双のうち右隻)
伝 狩野山楽筆
江戸時代 17世紀
徳川美術館蔵



③重要文化財
百花百草図屏風 (六曲一双のうち右隻)
田中訥言筆
江戸時代 19世紀
徳川美術館蔵



④紫陽花蒔絵印籠 銘 芝山易政作
江戸時代 19世紀
徳川美術館蔵



⑤雪中花鳥図屏風
(二曲一隻)
張月樵筆
江戸時代 18-19世紀
徳川美術館蔵



⑦百鳥図 (部分)
(五巻の内)
神谷晴真・楠本雪溪筆
江戸時代 19世紀
徳川美術館蔵



⑥唐銅鶴香炉・菊折枝蒔絵香合台
江戸時代 19世紀
しんきょうういんざちのみ なりほる
俊恭院福君(尾張家 11代斉温継室) 所用
徳川美術館蔵

使用媒体

放送日・発売日

プレゼント提供 希望する ・ 希望しない

貴社名

ご担当者様

データ送付先アドレス

ご連絡先電話番号

[ご利用にあたっての注意事項]

- ・画像のご利用は本展覧会の紹介用途のみに限ります。
- ・部分アップのトリミング、色変更等の加工はご遠慮ください。
- ・二次利用不可です。
- ・画像には最低限「タイトル」と「所蔵」のクレジットを明記してください。
- ・内容確認のための校正原稿をお送りください。
- ・ご掲載誌、DVD等を1部「徳川美術館 管理部 広報宛」でお送りください。



〒461-0023 名古屋市中区徳川町 1017

TEL: 052-935-6262 (10時~17時受付)

052-935-8222 (営業時間外受付)

FAX: 052-935-6261

担当: 吉川 yuki@tokugawa.or.jp

竹内 d.takeuchi@tokugawa.or.jp